

# 庄原特別支援学校支援センターだより ～地域との共同研究による特別支援教育の推進～



発行 広島県立庄原特別支援学校支援センター 電話 (0824) 72-5111  
メールアドレス : soudan@shobara-sh.hiroshima-c.ed.jp

NO. 19

平成 24 年 1 月

『庄原特別支援学校支援センターだより ～地域との共同研究による特別支援教育の推進～ NO. 19』のページを開いていただきありがとうございます。本年も、地域の特別支援教育のセンター的役割が果たせるよう努力して参ります。どうぞ、よろしくお祈りします。

また、「地域の特別支援教育に関するセンター的役割に係るアンケート」については、御多用な中、快くお引き受けいただき、地域の皆様が本校の取組を支えてくださっていることを改めて感じました。アンケートからいただいた御意見は、今後に生かしますので、引き続きよろしくお祈りします。

今号は、本校の教育について知りたいという御要望にお応えして、本校ホームページや第3回公開研修会での本校実践報告パワーポイントなどの資料、平成24年2月10日に予定している公開授業研究会の御案内について掲載させていただき、最後に算数に苦手さのある児童への指導例を御紹介いたします。

- ① 庄原特別支援学校ホームページ、第3回公開研修会資料紹介、公開授業研究会の御案内 p1.2
- ② 算数の苦手な児童への支援例 p3



## 1 庄原特別支援学校ホームページの紹介

本校では、特別支援教育に関する情報提供の充実にも取り組んでいます。その一つとして、本校ホームページから、知的障害のある児童生徒への授業づくりの御参考として、校内授業研究の取組経過（今年度の指導助言者は、広島大学大学院 准教授 竹林地 毅 氏，広島県教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事 西本 尚司 氏），小学部等の活動の紹介，高等部入学者選抜についての資料，過去の支援センターだよりなど様々な情報をダウンロードしていただけるようにしています。こちらも、何かお役に立てることがあれば、と願いながら作っています。どうぞ御活用ください。

公開授業研究会の申込用紙はこちらから、ダウンロードできます。

校内授業研究の指導助言、協議などを掲載しています。詳しくは次ページに。(1)

平成24年度高等部入学者選抜の実施要項、入学願書、調査書、受検票などがダウンロードできます。次ページにも、掲載しています。

★高等部

- ▶ 学部紹介
- ▶ 学習内容(教科・領域)
- ▶ 作業学習
- ▶ 生活単元学習

昨年、12月26日(金)に実施した第3回公開研修会の資料を掲載しています。複数の教員で授業を行う際の工夫をまとめています。こちらもダウンロードできます。お役に立てば幸いです。

庄原特別支援学校支援センター

- 庄原特別支援学校支援センター紹介
- 支援センターパンフレット
- 平成23年度教育相談のご案内
- 平成23年度学校訪問相談実施要項
- 平成23年度学校案内

-----各種様式ダウンロード-----  
 →平成23年度教育相談受付票  
 →地域の特別支援教育に関するセンター的役割に係るアンケート(回答用紙)

-----小学校・中学校向け-----

- 支援だより  
 第1号 第2号 第3号 第4号 第5号 第6号  
 第7号 第8号 第9号 第10号 第11号 第12号  
 第13号 第14号 第15号 第16号 第17号 第18号
- 地域との共同研究構想

-----高等学校向け-----

- 高等学校における特別支援教育(Classes With S.N.E.)  
 第1号 第2号 第3号 第4号
- 授業改善のための支援のアイデア
- 平成23年度 三次地区県立学校特別支援教育コーディネーター等 研修会資料提供

公開研修会案内

- 平成23年度庄原特別支援学校公開研修会実施要項(実施済み)
- 平成23年度庄原特別支援学校公開研修会(第1回、第2回)報告
- 平成23年度庄原特別支援学校公開研修会(第3回)実施要項(実施済み)
- 平成23年度庄原特別支援学校公開研修会(第3回)報告
  - 本校小学部発表パワーポイント
  - 参考資料
  - 申込用紙

高等部入学者選抜関係

- 平成24年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜(広島県教育委員会HPへのリンク)
- 平成24年度庄原特別支援学校高等部入学者選抜  
 平成24年度高等部入学者選抜実施要項(一次募集)  
 平成24年度高等部入学者選抜実施要項(二次募集)
  - 出願書類---ア 入学願書
  - イ 調査書
  - ウ 受検票

これまで発行した支援センターだよりや、三次地区高等学校コーディネーター等研修会の資料などは、こちらからダウンロードできます。

→① 1ページ目で紹介した校内授業研究会の様子です。2月10日(金)には、公開授業研究会で成果発表をします。当日は、授業者以外の実践もポスター発表で報告します。ぜひ、御来校くださいませ。(申込用紙については、前頁に記載しています。)

アセスメント及び  
 ティーム・ティーチングが  
 活きる授業づくり

広島県立庄原特別支援学校 小学部  
 教諭 世良知佳子  
 教諭 松岡 美幸

単元	1学期		2学期		3学期	
	実施	評価	実施	評価	実施	評価
国語	○	○	○	○	○	○
算数	○	○	○	○	○	○
英語	○	○	○	○	○	○
音楽	○	○	○	○	○	○
体育	○	○	○	○	○	○
美術	○	○	○	○	○	○
社会	○	○	○	○	○	○
総合	○	○	○	○	○	○
特別支援	○	○	○	○	○	○

第2回校内授業研究会

日時 平成23年11月30日(水)  
 場所 本校プレイルーム  
 研究授業 小学部 音楽科 「秋の歌2」  
 授業者 松岡 美幸  
 指導助言 広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 敏氏

<授業者から>  
 ○ シンボルマークは歌詞カードにつけ、曲が始まる前に必ず提示するようにした。「しっかりとこまれ」と「影ふみ」では「体を使う」という身体表現のシンボルマークを提示している。児童は声が出ないため、歌詞とシンボルを見て歌っている。  
 ○ 「よし」「きた」など、声に出しやすいものを取り入れ、授業のはじめに歌う活動も取り入れている。

<グループ討議>  
 3人一組で三つの討議の柱で協議 → 全体で意見交流

① 活動内容が児童生徒の実態に  
 応じたものであったか  
 ○ 「しっかりとこまれ」の歌の場面では、児童児童をわきと膝で抱えていたのはなぜか。  
 ○ 「わかいときたのうた」は知らない動物がたくさん出てきて分かりにくい。等

② 題材・教材が児童生徒の実態に  
 応じたものであったか  
 ○ 「風を感じる」の場面、マットに落ちる体験は、体で感じられる工夫があったが(特に重症の児童にとって)・・・等

③ 教室環境(シンボルマークも含む)  
 についてはどうだったか  
 ○ シンボルマークが歌詞カードの中に入った。どこを見たいのか分かりにくいのではないかと。  
 ○ シンボルマークは顔のみと全身があるのを統一してはどうか。等

<改善策>  
 ① について  
 ○ 重症の児童にとっては、教員が二人で抱えるよりは、シーツブランケットの方が安心できるのではないかと。  
 ○ リズムが良いので、歌詞を変えて身近な動物にしてはどうか。等

② について  
 ○ 重症の児童にとって普段できない動き、(回転するなど)があったとしても良い。等

③ について  
 ○ 視点を定め、シンボル(別の紙)の方がわかりやすいのではないかと。  
 ○ シンボルマークの絵は、児童にとってより分かりやすいものに替えてもよいのではないかと。等

<指導助言者から>  
 児童が授業の中で何かに気付く、味わう、他の子どもに評価されることも表現のサイクルだと捉え、児童の自分なりの表現はここだ、という評価を積み重ねていくことが重要である。  
 本時で使われた題材曲は、曲のテンポ、切れ目など、子どもの動きを引き出すには難しい。子どもが「おもしろい」「またやってみたい」と思える題材曲を探すべきである。  
 シンボルマークは、何のために使うか、必然性があるかが大切で、使うことが目的になってはいけない。児童生徒にとって分かりやすい環境を作るための支援の手立てであるという認識を校内共通のものにするとうい。

授業の中に児童をほめる場面がもともとあって良い。児童の態度、法数のプロセスなど、誰かかな部分に気付く、評価していくと良い。  
 研究については、一回の研究会で何が整理できたかが明確にないといけない。グループでの協議は、色を使いがらメモして整理すると良い。校内の教員が共通して「こういう授業をすすみたい」という目指す授業像をもち、そのための手立てを協議することで議論の質が上がる。

高等部入学者選抜関係の資料は、こちらからもダウンロードできます。

## 2 算数の苦手な児童への支援例

### 児童の様子

算数の計算課題は得意なのですが、定規を操作したりする問題や、図形の問題が苦手です。その他の学習では、絵を描くことも嫌がります。絵は思ったとおりに描けてないとの思いがあるようで、人に見せません。漢字は、大まかには覚えています。正確に形を整えて書くことは苦手です。最近、「一生懸命やってもできない」と苦手な課題を拒否するようになりました。

### 算数の苦手さの背景

- ① 視覚—空間能力の困難によるつまずきがある場合
- ② 言語性能力の困難によるつまずきがある場合

視覚—空間能力の困難があると、「量の概念の理解が難しい」「図形や測定の学習が苦手」「筆算で桁を揃えることが苦手」「数の大小の比較が難しい」「前後、左右などの位置関係の把握が苦手」などが見受けられます。言語性能力の困難があると、「数字が読めない」「九九が覚えられない」「問題文の意味を捉えることが苦手」などが見受けられます。

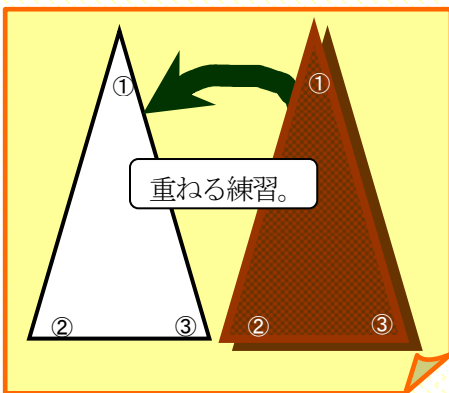
支援法としては、それぞれの困難さに応じた対応が重要になります。更に、算数以外の場面でも、それぞれの苦手な力を伸ばすような学習が必要になります。また、見くらべたり、定規やコンパスを扱うなどの作業に対しては、まず、見くらべやすくする配慮、操作を楽にする配慮が先に行う必要があります。(定規では、目盛りを見やすくする定規なども市販されています。目盛りを交互に色分けをするアイデアもあります。コンパスなどでは、中心を固定する工夫により操作しやすくなります。)

### 例えばこんな支援が考えられます。

- ① タイル、位取りシート、絵など、「数量」を目で見えて捉える教材を用意する。
- ② 角度、長さ、図形などは、プリントだけでなく、プリントに記載されているものと同じ角度、長さ、図形などを厚紙を作っておき、あてはめて確かめられるようにする。
- ③ 角度には、番号を付けておき、どの角度とどの角度を見比べているかを分かりやすくする。
- ④ どんな順番で見比べるのかを書いておく。
- ⑤ 点つなぎの課題を、短時間でも、継続して行う。
- ⑥ 課題に入る前に、楽しく視覚—空間能力を伸ばす活動を取り入れる。

### 視覚—空間能力を伸ばす活動

- 的あてゲーム：ボールや輪などを、的に当てるゲーム。的までの距離、角度、配置を変えることで難易度を変えることができます。
- 風船バレー：風船でバレーボールをします。通常のバレーボールより、ゆっくりと動くので、安心して見ることができます。
- 光の鬼ごっこ：暗くした部屋に座り、懐中電灯の光をあちこち動かし、子どもにもう一つの懐中電灯で光を追いかけさせます。だんだん速く、広範囲に光を動かすようにします。
- 目でする隠れんぼ：ビー玉やドミノのような小さなものを部屋や遊び場に置き、椅子に座ったまま、目だけを使って見つけさせます。
- 室内釣りゲーム：棒の先にヒモを結び、ヒモの先に磁石をつけておきます。好きな形に切り取った厚紙にもクリップを付けて、釣りをします。



参考：監修者玉井浩 編著者 奥村智人・若宮栄司 (2010)：「学習につまずく子どもの見る力—視力がよいのに見る力が弱い原因とその支援—」  
リサ・A・カーツ著 監訳 川端秀仁 訳者 泉流星 (2010)：「発達障害の子どもの視覚認知問題への対処法 親と専門家のためのガイド」

今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。「庄原特別支援学校支援センターだより」  
に関するお問い合わせは、soudan@shobara-shhiroshima-c.ed.jp まで、お寄せいただければ幸いです。